

MACFクリスマス

2022年12月25日

＊ ＊

「彼は来た！」

ヨハネによる福音書 1 章

1初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。 2この言は、初めに神と共にあった。 3万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。 4言の内に命があった。命は人間を照らす光であった。 5光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。 6神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。 7彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。 8彼は光ではなく、光について証しをするために来た。 9その光は、まことの光で、世に来てすべての人を照らすのである。 10言は世にあった。世は言によって成ったが、世は言を認めなかった。 11言は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。 12しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には神の子となる資格を与えた。 13この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。

14言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。わたしたちはその栄光を見た。それは父の独り子としての栄光であって、恵みと真理とに満ちていた。

＊ ＊ ＊ ＊

神の心を伝え、神の暖かい希望を伝えるべくイエスさまは来られました。

でも、人々は彼を受け入れるどころか、拒否したのです。十字架にまで追いやりました。

ここに人間の悲しい現実があります。

神が愛を持って、私たちのところに希望の光を届けてくれたにもかかわらず、私たちがそれを拒否しているという現実があるからです。

神の言葉、神の光などなくても、人間は自分たちの能力とがんばりでなんとかやっつけていけると考えている節があります。人間は神などいらぬ。そして神の支配など真っ平だという気持ちが人間の心の中には根深くあります。人間は一人では生きていけないということを頭の中では知っていても、神を同伴者として生きる、神に伴走してもらいながら生きる祝福をまだ十分には知りません。

モーセの荒野での40年のさまよい、唯一の希望は神が彼らとともにおられたということです。

社会的に箸にも棒にもかからないようなイエスさまの弟子たちにとっての希望はイエスさまがともにいてくださったということでしょう。

そして、彼らはその重要性を人間的な情愛で理解していました。

コスパ、タイパが重んじられ、有効性、即効性が重要視される時代、心を鎮めるための

時間をとったり、感じ取るための時間をとったりすることがとても非合理的なものという
感じで受け止められつつあります。

でも、ことしのクリスマス。

ちょっと時間をとって、この聖書の言葉を心の中でくりかえし、読み返してみましよう。

そして、イエスさまを歓迎したい気持ちになれたら素晴らしいですし、そうなれないとしても
神様からのアクションがあなたのためにあった、ということに気付いていただければ良いと思います。

＊ ＊

MACF礼拝映像はこちらです。

https://youtu.be/NkJT_pEcbLY

【ご挨拶】

今年も皆様と一緒に礼拝を捧げることができ、日ごとの糧を食することができたことを
感謝しています。

昨年よりは自由度が広がったとはいえ、まだまだコロナ禍の影響は大きく、今特に
小学生たちへの感染が広がっていると聞いています。

みなさま、くれぐれも健康にご留意くださいね。

この1年間、皆様からの献金やさまざまな形での支援、メールなどを本当にありがとうございます。

どんなに大きな支えになったか計り知れませんが、心から感謝申し上げます。

悲しいことですが、敬愛する方々の訃報にも接してきました。

それぞれのご遺族の皆様の上に心からの神様からの慰めをお祈りします。

来年はお茶の水クリスチャンセンターでの礼拝は1月8日から始まります。そして次は
1月22日です。しばらくは毎月2回（原則的には第一週と第三週）にOCCでの礼拝を
開催予定です。

年末、年始、お忙しい日々が続くことと思いますが、どうぞお元気にお過ごしください。
心から祝福をお祈りしています。

2022年12月25日クリスマスに

牧師そして友 関根一夫